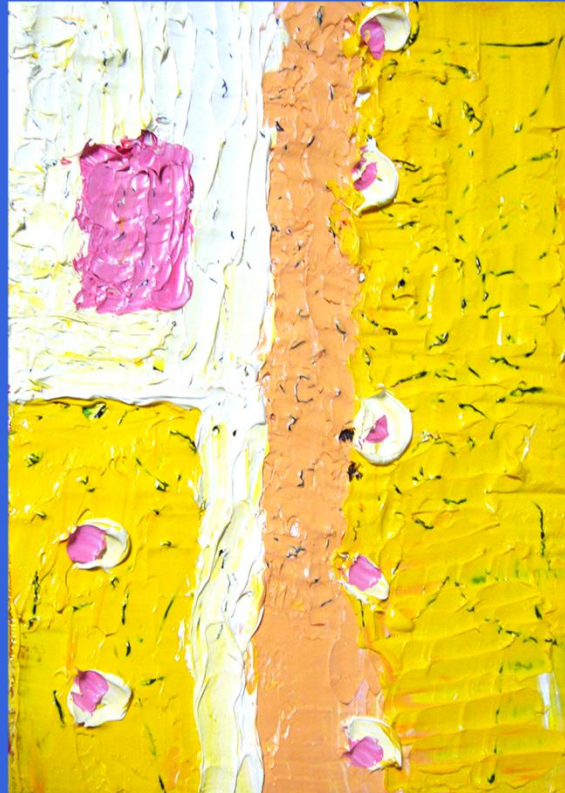


電子俳句  
ノート2005

ちくわの穴を  
のぞいてごらん、  
ほら、空が



絵と俳句  
おじやらか

はじめに

俳句の楽しみというのは、個人の楽しみであり、何者も邪魔することはできません。

その考えは、いつまでも変わりません。

この俳句ノートの俳句がどうやって作られたのかとか、何故、電子化しているのかなどは、去年の作品、「歳時記開くことも無くまた一年」でご説明しています。

お時間あるかたは、そちらもご覧になってください。

俳句の方はまだまだですが、俳句の芸術性に強く共感し、出会えたことに感謝し、また駄句を一つ作ろうと思います。

この俳句ノート掲載の俳句は、連れ句の掲示板をそのまま記録しただけですので、脈略、作成の意図等はありません。

毎日増殖する俳句を記録し、まとめておかないと、二度と引き出せなくなってしまうので、年に一度、このような形で、自分の将来のために整理しておこうと思います。

俳句を沢山作られる方のご参考になればと思います。

二〇〇六年春 おじやら りか



もくじ

連れ句しようぜ

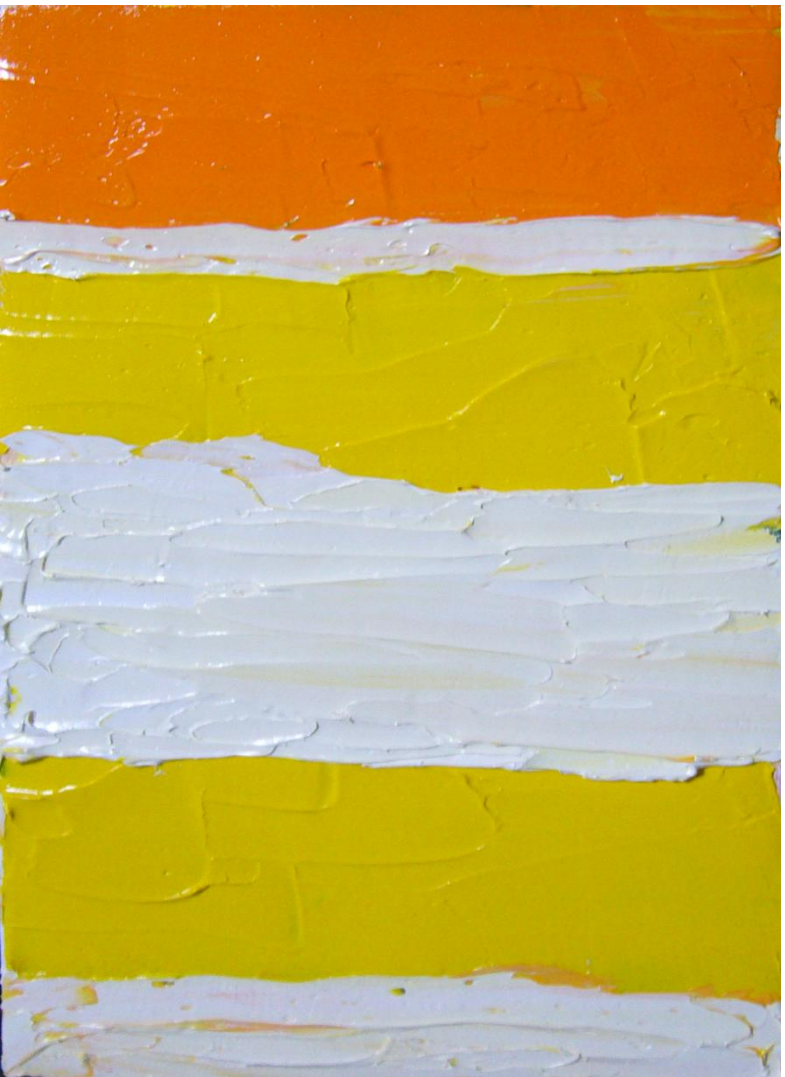
連れ句ヒツチハイク

連れ句催促軒

◆  
おわりに

◆ 連れ句しようぜ

二〇〇五年一月一日から  
二〇〇五年一月三十一日



思い出絵の中に閉じ込めている 12/31

- お年玉で四十坪が雲の御殿 12/30
- まな板のそぎ切りが花びら 12/29
- 命をかける程の鯉がまな板 12/28
- 霧に包まれた女を追いかけてみる 12/27
- 柳細く風に吹かれている 12/24
- 立ちシヨ ■ ○ △ ♪ への羨望 12/23
- ツインタワーの風景写真の虹色 12/22
- 葱鍋に小さな肉片を浮かべている 12/20
- かたつむりの殻のてっぺんから雲 12/19
- お代官様が帯に手をかける 12/18

- 恩着せがましい女の手土産を開けてみる 12/17
- お笑い番組の鍋をつつく 12/14
- 遺産で引き裂かれる仲良し姉妹 12/13
- M毛の雲がプカリプカリ♪ 12/12
- 優雅な猫ぐらしも今年限り 12/11
- サンタ待ちわびてスヤスヤ 12/8
- 夕焼け赤く着て影と 12/8
- 毎日歩かれている重さに耐えている 12/7
- 冷たい白さが頬で溶けている 12/6
- しゃがれ声の枯葉広がつてゆく 12/5

つれない雲がプカプカ♪ 12/5

そば殻と連れ添っている 12/5

雲助の霞を食べている 12/4

雲さんヨウコソ連れ句しようぜ♪ 12/3

何も知らぬふりの笑顔を練習している 12/3

雲を○△ぽ♪するヨチヨチ 12/2

迷ってばかりのケンタリの裏通り 11/29

裏道猫道の近道 11/28

因果関係の裏側に呼ばれている 11/27

フサフサ老翁のモテモテ 11/25

- ポイントカードに埋もれたる小銭 11/22
- 年末のジャンボがサイフの煌き 11/21
- 路地裏広くなって三角空 11/20
- そっと乗った針の行方 11/18
- 太ったケンタリの健康 11/17
- 鏡に話しかけるシュピーゲルさん 11/15
- パンドラの箱の蓋を閉めてよ 11/13
- 引き落とせる残りも少なくなってきた 11/13
- 悪魔が吹き溜まる場所に招かれている 11/12
- 砂糖もミルクも無いアトリエ 11/10



太れる体力も若さのうち 11/10

ゴマダレに秘伝を少し垂らしてみる 11/9

ギユツと絞って大根おろしと 11/8

白髪ショートストーリー 11/7

つま先の肉までホジって炊き込んで 11/3

蟹囲む無口 11/3

網走帰りだよと、無責任な口が笑う 11/2

網走監獄前のパチリ 11/1

梅炭酸に焼酎少な目をお願い 10/31

ピョンと出てきたお札にご挨拶 10/29

探し物は見つからない 10/28

鳥鍋ぐつぐつと呼びに来た 10/26

笑い響く鍋の湯気 10/25

チクリと嫌味を言うきのことである10/25

茸たちが息抜き 10/24

畳に寝転がれる一日 10/20

雲隠れにし未練がハンケチ 10/18

寒空に参る靖国 10/17

墓参りポツン 10/16

帆、空に吸い込まれてゆく 10/14

南国も今は昔 10/13

マンゴージュースの朝食 10/12

洋ナシとリンゴが向かい合わせ 10/12

体に優しい汁が食道 10/11

蟹がざわめく籠の中である 10/10

不良が今日も絵を描いて歩く 10/9

バチが当たったんだねと思い出話10/8

共存か駆除かの決断は先延ばし 10/8

枯れる前に刈られている 10/7

大きな太陽と見つめあう 10/7

忘れた方が良い一日 10/6

何もおぼえちゃいない覚書 10/6

ポツンと残された老木の廃校 10/5

校庭を眺めてそつと過ぎす放課後 10/4

爆発音が流れてきた 10/4

待ちぼうけの切り株に木の葉 10/1

合格も落第もないうつらうつら 9/30

飲めない一生の節約術 9/28

胃下垂の胃拡張が自慢のスレンダー 9/27

三連休が秋風 9/26

消えていった神風たちの青空 9/24

台風の目に涙 9/23

思惑すれ違う空模様 9/22

自作自演にも飽きてくる秋 9/22

三日月顔の女も結婚した 9/21

月の砂でコンクリを作るといふプロジェクト 9/20

月の模様を考えてみる 9/20

お月様に話しかけてみる 9/19

三Sもあウンの貫禄 9/15

若かりし兎も年取った 9/14

ニルス少年も大人になった 9/14

DNAに逆らえず 9/13

レタスに包まれたギョロ目を外の葉に乗せ替える 9/12

土に返ってまた枇杷となる 9/12

嘴しきりにつついてみる地べた 9/11

千手千年も大切にされてきた 9/9

西から昇ってきたバカボンの光 9/8

中国語で歌う日本の春 9/8

三十二歳の転身 9/6

緩やかにのぼればあとは下り坂 9/6

- 赤いチョッキを着た兎が月へ 9/5
- 取り囲んで覗き込む寝息 9/5
- 白湯スープの湯気を集めている 9/3
- アリスの茶会だと思いこんでまた一日 9/2
- だらしない浴衣がポツリポツリ 9/1
- 晴れ着遠巻きに囲む青空 8/31
- 結局リュックだけの防災グッズ 8/30
- 自家焙煎がポコリポコリ 8/27
- 笑い袋と一人 8/23
- 気にするな、男気の勝利 8/21

- フサフサの白髪がナイスっす 8/20
- 山姥になりきれず白髪染め 8/19
- 気づかないことも忘れている 8/15
- メットをかぶって一日が始まる 8/15
- 帽子落とした目黒の蝉しぐれ 8/14
- 帽子の顔を覗きこまれる一日 8/13
- 連なっつてゆく俳句 8/10
- 近寄りたくない掲示板の品の無さ 8/5
- 事情通への取材依頼もメールにて 8/3
- 河童が足を引っ張っている 7/30



こみ上げてくるものを飲み込んで笑っている 7/28

まじめに生きてきたまた一日 7/28

台風が風車を回して白波 7/27

白百合すつくと見下ろされている7/27

一人で守る城の天国 7/26

ハーブガーデンでもハート探し 7/25

ころり転げた木の根っこに白兔 7/24

鼻面白くして尻尾を振る 7/23

睫毛伸ばした黒い顔がこちらを見ている 7/22

チラリと3度目が合うラッシュアワー7/21

- ポーの挿絵の銅版画を見つめている 7/21
- 首タオルの髯面が囲んでいる 7/20
- キーホルダーが引き戻してくる 7/20
- 自動点灯が伸ばす人影 7/19
- 空ポツカリとした場所に切り株 7/19
- 頼りの無い明日の一枚 7/18
- ツルリとすすりあげてゴクリ 7/17
- ビリケンと並ぶケンタリ 7/16
- ニツカボツカの夕焼け 7/14
- ツートンの猫潰れた顔でチラリ 7/14

スプーンの中ハンプティダンプティ 7/11

笑顔の天使、増殖中 7/11

流れた先の滝壺 7/10

義理人情の坩堝に流されてゆく 7/10

紫蘇の上の毛虫がご馳走様 7/8

紫蘇入れる日の朝 7/8

ミニヤツクの意味を思い出している 7/7

Minyak (インドネシア語のインチキ臭さ) 7/7

ドツプリと暮れた細道とぼとぼ 7/6

目を伏せて歩く夜道 7/6

芥子潔よく裏庭 7/3

パソコンが壊れて未読 7/3

悪魔のような女が追いかけてくる夢の結末 7/1

学ぶことの楽しさを教えてもらおう 6/26

いつも疲れていて可愛そうと子が殺してくれたよ 6/25

狙われる一人暮らしの孤独 6/25

伊勢海老でタコ釣る怪 6/22

風呂上りの枝豆に一掴み 6/20

猫をシャンプーして干している青空 6/20

ウサギのオーナーはホームレス 6/19

無借金の貧乏 6/19

隣のお墓にもお水 6/18

機嫌の悪い鹿が馬と 6/17

熱にうなされたような一日 6/15

イブの雪空の道を走る 6/14

鼻をツヤツヤさせてニオイを嗅ぎに来る 6/14

満員電車の痴漢教室 6/13

まんざらでもない勘違いを扇ぐ 6/11

紫陽花と雨とちっと 6/10

ビーダマおひさまにかざしてくる6/8

- 入院話と行ったり来たり 6/6
- 狙われる老夫婦のへそくり 6/5
- 腹太鼓が鳴り響いて狐もやってきた 6/3
- 惚れっぼい女の男運 6/1
- 三回休みのトイレタイム 5/31
- 辛（ラー）にヒリヒリとさせてアツアツ 5/31
- 黄金のタルタルをトローリ 5/30
- 外で遊ぶ子を見かけない下町 5/28
- マスカラ分厚い十三の涙 5/27
- YANな伝説空から落ちてきた 5/26

- 和泉校舎にも白雲 5/24
- ホットドッグ片手にテレビジョン 5/21
- 骨肉の俳句投稿 5/20
- 時代劇をパクって七人 5/19
- どんぶらこと流れてきた 5/18
- 熟女になりたくない未練 5/18
- 男運の悪い顔が横に座る 5/17
- どうということのない器の美酒 5/16
- コスプレも芸なのか？原宿界限 5/16
- ポツリと頬が受け止める春雨 5/15

- 飛んできたミサイルの着地点を確認する 5/14
- 首の無い鳩がゴロリ 5/10
- カラス駆除でハトの大ブレイク 5/9
- 拾った傘ですがと折れ曲がりを持たせている 5/6
- はるはあけぼの、式部とは不仲 5/5
- パソコンから抜け出したサダコが手招き 5/4
- 恋文にも理屈が並ぶ真面目 5/4
- 甘いワインも結局飲んでしまう 5/2
- こし餡が喉になだれ込んでお茶 5/1
- 法医学と戦う土左衛門 5/1



- キリリと喉を冷やして古代ガラス杯 4/30
- ケンタリ句碑となり力石の横へ 4/28
- アトリエに棲む鼠と猫 4/27
- ミニバラ小さく香を放っている 4/26
- 宴会か濡れ場かGPS 4/25
- GPS付きケータイで修羅場 4/24
- 河原の桜水面つながってくる 4/22
- 祭り足袋にもエアクッション 4/22
- 後姿の薄くなり具合にありがとう4/20
- 前後ろで裏返った服を着ていた一日 4/19

- 金庫番もいなくなつた 4/19
- 不器用の人の良さ滲んでくる 4/18
- ワラビーが笑つてピョンとこちらに来る 4/16
- 白拍子がヒラリ迫ってくる 4/15
- れんげに座す小さな仏様を描く 4/15
- チャットの平成糸電話 4/14
- ピンと張つた糸が声を運んできた 4/13
- 汗、春風スつと吹き抜ける 4/13
- 有閑マダムのチラリズムにドキリ 4/12
- 夢の中には別の妻との二重生活 4/11

- レジャーシートの中央に陣取っている 4/10
- 花影縁日の灯りに溶けて 4/9
- 便乗して連れ句の満開 4/8
- 消防士さんもスギ花粉 4/8
- 浅草寺ハートストーンの永代供養済み 4/7
- 今日だけは上を見上げて立ち止まって 4/6
- 犬とつながれり飼い主の朝 4/6
- 犬につながれた爺婆の朝 4/6
- オカマバーでもマイクを離さないウサギ 4/5
- アタシというオカマ用語 4/3

- オカマの苦労話に連れ句 4/3
- オナベという職業もある 4/3
- 白兔の肩が重い 4/2
- 大きな鈴をつけられた猫である 4/1
- 誘われると断れない雄猫の春 4/1
- 狸が兔に化けた安部川辺り 3/30
- ほたるちらほらかえってきた 3/28
- タバコを吸ったことの無い優等生 3/28
- 進化した禿げアタマがピカリ 3/27
- 謎めいたSFを書く男である 3/26

- ハグハグをしないと不安な人種のパーティー 3/26
- カレーCMも甘くなった 3/25
- 嘘ばかり連なって無口になる 3/23
- オナナの勘に問い詰められる 3/23
- 犬に鼻先を舐められた厚化粧 3/22
- ホワイトラビット金時計にあわてている 3/21
- 詐欺師の赤ワインから白ワイン 3/20
- 労働で鍛えぬく力自慢 3/19
- 腹踊りが飛び出る宴たけなわ 3/19
- 兜焼きから音がはじけるを待つ 3/18

波乱万丈も今日の一句から 3/17

命広がった生き残り 3/16

黄な粉足りなくなつた葛餅の断末魔 3/15

春風次々と色塗り重ねてゆく 3/14

芝の薄緑が萌え広がってゆく 3/13

薄萌え太陽が透けて見える 3/12

ピアノから英語へお受験加熱 3/10

孫の手が肩たたく小ささ 3/9

月で餅つく兔にも春 3/8

ニブイ音を立ててケンタリがやってくる 3/7

- 健康を気遣われる飼い主の朝 3/5
- 健康なニヤンの朝四時 3/4
- 糞を撒き散らす犬を探す 3/3
- ナフタリン漬けのこやし 3/2
- この雛の同い年 3/1
- 印画紙も形を変えてきた 3/1
- はらりと花びら浮かべている 2/28
- へソクリももてささやかに 2/26
- そつと使い込むオットのへそくり 2/26
- おおらかなる線で描く 2/25

猫が行火がわりの春雨 2/24

花粉、黄砂となりはなのあな 2/24

春色の便箋がポストにひらり 2/23

春色のクロゼット飛び越して夏服 2/22

パジャマの抜け殻のホカホカ 2/22

楽しみの連れ句、たまには 2/21

厚く塗れば少し気が休まる女心 2/21

化粧が落ちるから泣けない十三の女 2/21

まんどうが棚から落ちてきて怖い 2/20

武蔵の書の前の沈黙 2/19



- 義経の薄ごろもヒラリ 2/19
- つまづいて立ち上がれば雑踏 2/18
- バナナの葉懐かしく雨模様 2/15
- 鰻値上がりショーケースの前 2/13
- 黄な粉に白兔を包んでパクリ 2/12
- 黒蜜ドロリと黄な粉にまみれている 2/11
- バナナの花粉を運ぶ一日 2/9
- やんごとなき土方の掌 2/9
- 地下茎伸びすぎてバナナ畑 2/9
- 胤がでてこぬ辞書の空白 2/8

- 砂利袋の中のハートストーン 2/8
- しがらみ絡まる白兎のアンゴラ 2/7
- 何もかも捨てればガランと静か 2/6
- 足跡スツポリ進んでゆく 2/5
- 霜が小さな悲鳴と踏まれる 2/4
- 浄水された温泉に卯の花 2/1
- 曾根田辺りの湯につかる 2/1
- スズメ少なくてカラスの摩天楼 1/30
- 水溜りの太陽掌に 1/28
- なまずと同居の熱帯魚の迷惑 1/27

万葉の姫様をてぬぐいに描く 1/27

万葉人の間を風が吹く 1/26

背中であつぶやけるケンタリの裏技 1/24

白鳥眺めて言い出せず 1/24

凧見て白い鳥ふわり 1/23

腹黒の白兔が月夜 1/22

腹の中丸見えの悪人面 1/21

オツシヤルトオリと口では 1/21

うさんくさい話に乗るか乗らないのか？ 1/19

津波のオオカミ少年の一人騒動 1/19

- カラス対策は生ゴミの除去から 1/18
- くちばしまつくろな鴉のため息 1/18
- 白と黒の絶妙 1/17
- プルプルと震えた犬のコートと散歩 1/16
- 電子辞書に歳時記も入れて散歩 1/15
- 電子広辞苑で文字拡大 1/14
- 字引の文字の点描 1/14
- 古本拾いの激寒に百科事典を譲る 1/13
- オアシスはそよと歌う 1/12
- 女風呂で観察する肌色 1/12

- 団欒に絵を添えてみる 1/11
- 純米辛口キリリと胃袋を攻める 1/10
- 肖像画がウインクうしみつどき 1/8
- 少しハンサムに自画像 1/8
- 平林と名乗る漁師のひらめ 1/7
- ぽっと膨らんだ梅のほっぺ 1/6
- 良い笑顔の人とすれ違う春 1/5
- 年を忘れたら今度は新年会 1/4
- 口を揃えて新年会だから 1/4
- 正月おでんで昼間から 1/2

連れ句ヒツチハイク

二〇〇三年十一月七日から  
二〇〇四年十二月三十一日



みかんの点描が対比する空 12/31

オレンジ色を翻して一步 12/30

借りるあてもない着たきり 12/30

安酒の一人チビリ 12/29

青い炎に包まれながらジュワーツ 12/28

雑巾の指先が歳末 12/28

ペツと吐き出す女ばかりの市 12/27

看板娘の愛想笑いにチャリン 12/24

ほらふきのラッパが天使に届けられる 12/23

吹き放つ矢の大当たり 12/23

どくだみ潔く白の路地裏 12/22

ネオンの呼び声寂しさ吸い込んでゆく 12/20

ネオンの背中消えてはまた湧き出てくる 12/19

響きあう連れ句の森 12/18

点在するブルーの森を歩く 12/17

日焼けのニヤケた男にホロリ 12/14

路地裏にちよろりと出た雑草である 12/13

太陽不足気味の黄色葉 12/12

貧乏が冷え込んできた 12/11

空白のスケジュールにお絵かき 12/8

口の中にチップを入れてサツチモ 12/8



- タヌキ顔のウサギの眼鏡がずり落ちてくる 12/7
- イヤーホンの音風に飛ばされてくる 12/6
- 薄化粧の山としんしん 12/5
- 手形のブロンズと握手を試してみる 12/5
- 皮下脂肪のヘビー級 12/4
- ナイスミドルの皆様にご挨拶 12/3
- うろたえる羊をパクリ 12/2
- 酔えば泣く父のしみじみ 12/1
- 池波正太郎の文が切りかかってくる 11/29
- どんど焼きも通報のブロック塀 11/28

- 焚き火パチパチと囲んでいる 11/27
- 鳥も住み難い師走 11/25
- 暑苦しい女が夢まで 11/22
- 低血圧の女の手足の冷たさ 11/21
- 小さい天窓から星空 11/20
- 味気のない珍重スープ 11/18
- 冷たく別れる優しさ 11/17
- 絵の一枚も持たぬお宅のお部屋 11/15
- 八方に美人顔の目尻 11/13
- 隠し通している人生の裏の裏 11/13

見せしめにされた禁断の恋 11/12

四時三十分のバイク音の目覚まし 11/10

刺されないかなと入院願望 11/10

ネットの友の声受話器の中 11/9

冬立つ秋の一日 11/8

立冬の透明人間 11/7

お高いワイン切り出せずに 11/3

たわわなる紫色を一粒プチン 11/3

黄色く色づいたのを散らしてみる 11/2

思い違いのあぶり出し白紙が焦げてゆく 11/1

- ネオンの誘い断りきれず 10/31
- 夜行も高級化する旅の行く末 10/29
- 恐山のハートストーンは置き去りに 10/28
- 中国から出土したらしい土産モノ 10/26
- うつすら笑う埴輪につられている 10/25
- ロマンチストの埴輪と見つめあう 10/25
- 埴輪の目の中を覗いてみる 10/24
- 今日の道をゆく 10/20
- いぶといぶのあいだにおつきさま 10/18
- らくだがポツリポツリ 10/17

ウブを懐かしむ体脂肪 10/16

空色の屋根ガラリと入ってゆく 10/14

出張泡が踊るよ川崎 10/13

妊婦と間違えられてシルバーシート 10/12

耳をピンと立ててちつと 10/11

すぐに顔に出る兔の鼻が動く 10/10

ジョーカーひらりポーカーフェイス 10/9

ぐるぐるとマグロ解体ショーが皿の上 10/8

切り身ばかりが並んだパックを籠に入れる 10/8

どこかにきつと光るモノがあるはずと探してみる 10/7

柿の葉寿司の葉の落ち葉も二十年10/7

七光ちゃんズラリゴールドン 10/6

義太夫が秋風 10/5

青柳落つる背中を丸める 10/4

寅さんの疎外感を感じる心 10/4

毛虫集う大きな葉食われるままに10/1

うどんが炊けた陸橋下のワンカップ 9/30

しちりんの煙が呼んでいる 9/28

油の落ちる煙を取り囲んで待っている 9/28

もう少し骨のある食卓 9/27

- 駄句のような一日の一枚が並ぶ 9/26
- 背伸びして赤く咲き揃う 9/24
- 石の目玉がギョロリと動く 9/23
- 石が話しかけてくる 9/22
- 拾った手帳の意味深 9/21
- 遠い面影先生の皺 9/20
- 赤い手帖という本が二冊 9/20
- いつまでも先生でいてくれる 9/19
- 芋にHというあだ名のみままで 9/19
- せつかな秋がもう散っている 9/15

静岡はもうススキ野 9/14

いつのまにか秋色が包み込んでいる 9/14

破られた約束も時効 9/13

三味線も見かけなくなつたお笑い 9/12

かしましい娘がテレビの中 9/12

糸瓜眺めてしんみりとする 9/11

借金も宵越しも無いこの先 9/8

大資産家の負債過多なる道 9/8

ハトがパツと飛び立った絵の中 9/6

絵をみてハツとする人が増えてきた 9/6



ほうきを作ってはほどこいてひとり 9/5

名前とURLだけの名刺がオフ会 9/5

土あれば煙立つ 9/3

何やら話しこんでいる夜虫 9/2

秋が混ざった朝を歩く 9/1

手を差し込んでみる、冷たさが広がってくる 8/31

薄い水割りに薄ら笑い 8/30

夕焼けが照らす曲がり角 8/27

まだまだ太れる老翁の余裕 8/23

首重く垂れて秋風 8/21

ずいずいっと、なかなか描けないでいる 8/20

糸口を少し広げてみる 8/19

ビールとワインの胃袋が暴れている 8/15

キャンテイクラシコとぽとぽ広がってゆく 8/15

お山のお墓が見下ろすまた夏がくる 8/14

茜の空何も言わずに 8/13

憎たらしい小僧の鼻水が飛んできた 8/10

柿くへばという句のよさ 8/8

おとぼけキャラが盛り上げるバラエティー 8/5

自己愛の強いカウンセラーのセラピー 8/3

墨田の花火の音かすかに連れ句 7/30

化石ごと生き続ける 7/28

石であつても一つ一つに個性 7/28

道場の隙間からそつと追いかけている 7/27

天狗の鼻も売りに出されている 7/27

カエル一度だけ来てくれた雨 7/26

許すことの難しさをテレビから流れてくる 7/25

まだ見ぬ地の果てを探している 7/23

ガラスの目玉昔を思い出している 7/22

南国のスパイスとヒリヒリ 7/21

- 砂利の音が知らせてくれる 7/21
- 専門店の墨汁をけ散らしている 7/20
- 登り坂ゆるやかに空へ 7/20
- 小道奥まったところの展覧会 7/19
- 葡萄に染まる丘の真ん中に行く 7/19
- 野暮ったい真っ直ぐな男の隣にいる 7/19
- 気の強い女の振りばかり 7/18
- 縁の無かった女の置き土産 7/17
- 心のレンズ、ズームアップ 7/16
- 詰め込まれて重さが手のひら 7/14

サイレン豪雨がストップする 7/14

涙の数を数えてみる 7/11

兎の腹太鼓が月から聞こえてくる7/11

ルーターの歯が笑っている 7/10

ゴミの上に建っている 7/8

シマウマ模様のワンピースがハイヒールと 7/8

ひらひら赤と黄行ったりきたり 7/7

山崩しの手一杯 7/7

ハンコを押したきり 7/6

たわわ短冊の煩惱 7/6

- オカマと呼ばれてしまうオジャラの行く末 7/4
- 心に大きな橋がかかってそちらに歩いてゆく 7/3
- 談合のお引越し資料も内部告発 7/3
- 火のような女を遠目に 7/1
- うとうとエアコンの風の中 6/26
- 悪夢猫が腹の上で粘っている 6/25
- 押しかけられた幸せ 6/25
- 岩に刻まれた暗号を解いて進む 6/23
- イモムシの目玉羽化しはじめる 6/22
- ポッケの無いスーツで名刺交換会6/21

山賊の三足の足袋 6/20

老婆に囲まれ後ずさりの白兔 6/20

カツオがヘソ出してサザエさん 6/19

谷間流行でペチャも寄せてあげて6/19

葡萄摘む指先が唄う 6/18

ヌードの並ぶあとりえ 6/17

観音様に見られている雪隠 6/15

戸をパタンと閉める、涙が出てくる 6/14

年取っておまるのススメ 6/14

鶯谷の梅が誘う 6/13

どんよりを風が押し流してゆく 6/11

期待と戦っている 6/10

扶養者控除の不公平感 6/8

マトンも焼けてきたジュー 6/6

あとかたもない女の埋まった場所 6/5

ぶーんと羽音のようなパソコンの側 6/3

干した傘影の毛づくろい 6/1

くのいちのくの字 5/31

雨避けのビニールに絵を乾かす 5/31

黄金比率の女が笑う 5/30



- イケ面ピアノマンがワインの食卓 5/28
- カウンターの美女がウイंक 5/27
- リンスがグレーに染めてくれる 5/24
- セキュリティの落とし穴 5/21
- 桐箆笥のこやしを引っ張り出してみる 5/20
- 空色どこまでも 5/19
- 監禁番組のワイドショーフィーバー 5/18
- 蹴って下さいと土下座のパンツ姿 5/18
- 猫のくしゃみが居場所を教えてくれる 5/17
- 五月晴れに白い煙 5/16

押しかけ女房に敷かれる幸せ 5/16

あぶく銭の話ばかりが酒場を盛り上げている 5/15

ギイーときしんだ扉の千年 5/14

帰る山の無いカラスの夕焼け 5/10

泥縄で固くしばっている 5/9

小さなたんぼポツンと朝顔と 5/6

ニコライの十字架青く光る 5/5

★降る夜のマイク離さずに 5/4

テトラポット全てを吸い込んでゆく 5/4

一日を満腹で締めくくって風呂 5/2

茶摘の指先が唄いだす 5/1

いとし藤のてぬぐいを渡してみる5/1

タヌキが口をあけて銀座の角 4/30

犬掻きの兎が太平洋 4/28

豪華リゾートホテルでも犬掻き 4/27

乾杯でスタートする地獄 4/26

重力の無い月のゴルフ 4/24

裏の稼業の木っ端舟 4/22

ツユにどぼんとタコがはみ出してくる 4/22

酔っていない振りの運転 4/21

引っ張られた縄から伝わってくる 4/20

オーブン陶芸に迷う 4/19

春がさらに盛られて運ばれてきた 4/19

酔ってはまた覚ます春風 4/18

芸術も俳句も目指すは同じ道 4/16

猫と大の字の春風 4/15

月がおやすみなさいと寝室 4/15

春が思い出させてくれる水草 4/14

水面泳ぐ鯉のぼりと目が合う 4/13

散られて薄緑を見上げる 4/13

つながれた犬の長生き 4/12

ワンと吠えりや五円玉 4/12

女にも熟れ熟れからメール 4/11

もつと儲けようと大損 4/10

粒あんに愛想笑い 4/9

自称あげまん和肉まん 4/8

横っ飛びできぬうさぎの正面 4/8

猫のエサ場に跡を残して主張 4/7

今日から満開の下を通り抜けてゆく 4/6

空華やぐ一日と 4/6

- ボケには突っ込みのオジヤラ家の団欒 4/5
- 天才が集う連れ句ヒッチハイク 4/3
- 腐ったタマネギという脳は聞いたことがある 4/3
- 何?ケンカ?と、不動産屋の社長に一括 4/3
- 巫女を追いかける平安京 4/2
- 男気が兎となり暴れまくる 4/1
- すずめの舌を切る物語 3/30
- 冷たい雨が桜をふくらましている 3/28
- 金鳥の渦巻きと日曜日 3/27
- ニョッキリとスカートの下の大根が歩く 3/26

うなじづく連れ句 3/25

ジャガイモ見せてねとヒッチハイク 3/23

雨音に寝入る 3/23

平和な交番のパトロール 3/22

犬に借金する白兔の瀬戸際 3/21

たたみの青さがふんと気を引き締める 3/20

もう逢わぬ友の噂話 3/19

お疲れさんと、まだ見ぬネットの友 3/19

梯子のてっぺんからシャボン玉 3/18

雨模様の洗濯物 3/17

- 雨の夜の決意 3/16
- 亀が顔を出してパクリ 3/15
- 亀の粒のような眼とアイコンタクト 3/14
- 木仏の微笑につらられている 3/13
- 大丸から円空の図録が届く朝 3/12
- 補助金上乘せというリストラ 3/10
- 町の名と引き換えに援助金 3/9
- 足出してくれるとモデルにリクエスト 3/8
- 旗風を抱き青空 3/7
- にじみ出るDNA 3/5



やっと辿り着く週末の玄関 3/4

淋しいひとりの湯沸かし器を押す 3/3

フォークソングパツと広がってトン 3/2

おでんのフタをそつとあけて卵 3/1

さくらのお肉と野菜を囲む 3/1

馬面が並んで走っている 2/28

天狗山を蹴って飛んできた 2/27

良く切れる刀でトマト 2/25

かくれんぼの路地裏欠けた空 2/24

あの人もこの人も夜の町 2/24

黒いドレスの女が横に座る 2/22

眉間のしわのくつきりした女であったよ 2/22

一ポイントの犬の冬毛 2/21

疎まれてはまた白くなる兎 2/21

最悪主演男優賞ブッシュの薄ら笑い 2/21

吉と描かれた杯でチビリ 2/20

ついていない輩の縄のれん 2/19

案内状の60度がウイנק 2/19

負け犬と呼ばないでの本音 2/18

ベジタリアンと同席のカレーレストラン 2/15

くちなしを挿して歌う 2/13

花粉が押し寄せてコンビニ前 2/12

落語のてぬぐいが気になる昼下がり 2/11

菊一文字の包丁ヒラリ 2/9

プアゾン臭い女がガンを飛ばす 2/9

渡さんの唄声遠く 2/9

コーヒー豆を摘み取る唄の空 2/8

雪となる摩天楼 2/8

色褪せた笑顔が定期入れ 2/7

よよとすがりつく昔の女 2/7

激寒雪おろしてくれる人 2/6

雪崩で黒部の土となった人の記憶 2/5

吐く息と湯気の炊き出し 2/4

母子痩せ死ぬアパートの孤独 2/1

スズメつらなってパン屑タイム 2/1

サモトラケの縞模様が羽ばたいて消える 1/30

ばちあたりの自業自得 1/28

飛び火した言葉の大火事 1/27

ケンタリが出動する早春 1/27

春が路地裏の満開 1/26

- 火消し半纏の潔さ 1/25
- 酔っ払って膝小僧の大穴 1/24
- ツルリとタイルの床に雨 1/24
- 大きくなった子猫とふとん 1/23
- 妻計三の波乱万丈 1/22
- まだ家族に会えぬ子供の行く先 1/21
- つながっている海の向こう 1/21
- 血糖値には弱い酒好きの白兔 1/19
- ゼツタイ瀧しあん派の甘み抑え目 1/18
- ボルシチに激怒の合コン 1/18

- ペットボトルの新提案 1/17
- 探しては日暮れている 1/16
- いつお会いしてもお若いケンタリ爺 1/15
- 美少女足を頭上に乗せてクルリ 1/14
- 千鳥足が氷上 1/14
- 暁の星キラリ願い事 1/13
- 夜空の色、オゾン色の重ね塗り 1/12
- GIF画像に置き換えた空 1/12
- 曇り空を青く塗っている 1/11
- 放浪しては一枚の空 1/11

正月明けの静寂 1/10

丸まってあくびーっ 1/8

洗濯機上が猫の指定席 1/8

地下水脈に風が通る 1/7

おもてなしの茶ののどぐし 1/5

きりたんぽ煮詰まるふるさと 1/4

真田の子孫という女がヒラリ 1/4

豆模様のはちまき潔く 1/3

富士をまたいで兎雲 1/2

手習い初めのみぞれゆく 1/1

◆連れ句催促軒

二〇〇四年六月二十九日から  
二〇〇四年十二月三十一日



いつも寝てしまう下戸の割り勘 12/31



油抜いてパサパサの肌に水分 12/31

雪雪雪足あとまた白く 12/29

寒い冬の梅が小さく笑ふ 12/28

銭湯のような蛇口からお茶 12/27

ぐるりと回ってきたウニをパクリ 12/24

ベサメムーチョの着信音、君から 12/23

ムーチョのままとベッサメベッサメ 12/23

素焼きの鈴がフクロウの顔でこちらを見る 12/21

天使が届けてくれた赤丸 12/20

赤丸を増やせない諸事情 12/20

- すぐに次がスタンバイしている女の不幸 12/18
- 女のため息をあきらめる 12/17
- 歌謡ショーの裏道にオカマ 12/14
- オカマが手探りする気になる場所 12/14
- オカマも大手を振るテレビの中 12/13
- 雪女がコンビニアイス下さいな 12/12
- 防寒に包まれて屋台 12/11
- くちから生まれてきた兎が並んでいる 12/10
- がらくたを集めて並べている 12/9
- 出張費の計算が半日 12/8

家賃のチェックが月初のお仕事であったよ 12/7

千年灸ぢんわり焦げ付いてくる 12/6

コムラ返しの朝の痛みをやり過ぎす 12/5

布団の暖かさが朝を遅くする 12/4

猫があくびをして顔を舐めている 12/2

上に向かって潮が引いていく 12/2

波が押し寄せて赤富士 12/1

赤富士を囲む頭が連なっている 11/29

ウサギ雪に紛れてピョコリ 11/25

ちくわの穴を覗いてごらん、ほら、空が 11/23

おでんの看板が呼びかけてくる 11/22

善人の振りをして生きる 11/20

化けの皮を燃やしている 11/19

パチンと割れてもまたひとつ 11/17

面倒かけてばかりの空が青い 11/16

自慢焼きのパリパリとホカホカ 11/14

湯たんぽもない夜しんしん 11/13

ますますここ掘れの師走 11/13

掘り出しモノか、ニセかのオーラ 11/12

ツキが追いかけてくる 11/10

あの猫も、あの猫もパパの兄弟 11/9

猫と枕分け合う一日 11/8

万次郎が夢枕 11/8

カラオケの女から涙 11/7

骨の髄まで溶かされている 11/5

臭い猫を洗う青空 11/3

長い爪先にダイヤモンドが男にリング剥かせている 11/1

牛の鼻息おそるおそる 11/1

月のお姫様が帰ってゆく光の道 11/1

顔色の青い女ばかりの酒場の男運 10/29

冬のつま先木枯らしまきついている 10/28

タブーだらけの国の禁酒禁煙 10/27

尻餅大根のチラリズム 10/25

リストラする男もつらいよ 10/25

狸がポンポコ輪になる夢であったよ 10/19

品のない本物のニセ扱い 10/18

兎のシヨールフカリと並んでいる10/17

シヨールウインドー白兎が並んでいる 10/17

ウサを食べて生く赤提灯 10/15

少し詰めればの居酒屋マナーモード 10/14

ポツンと一人だけの居心地 10/13

貸切の美術館に足音 10/12

腰のひねりについて踊らされるアホウの列 10/12

隠したどんぐりの春 10/11

空想癖落ち葉の中 10/11

襻ヒラリとして面 10/10

天城越え着メロの怨念 10/9

くるりと白拍子のおみ足迫り来る10/8

おでんに純米とカウンター 10/7

黒ハンペンのおでんに呼ばれてきた 10/7

珍味が集まってくる兎館 10/4

言葉要らない感謝が溢れてくる 10/2

白髪染めもせず伸ばしている 10/2

腹踊りのペイントに芸術 10/1

握り締める電磁波伝わってくる 9/30

荒川のハートストーンに呼ばれている 9/30

湯気立つ餅を丸めてくれる 9/29

今日も絶好調の兎の尻餅 9/28

登り続けていた一休み 9/27

正三角形の兎のスーツからピョロリ 9/27



- 首のまわらぬ画家の自画像 9/27
- たらふく食べたという顔で丸まっている 9/26
- 豆腐の湯気をつついている 9/25
- 後ろめたい豆腐の角でたんこぶ 9/24
- 健康屋台の行列に並んでいる 9/23
- 嘴黄色いサンマがこちらを見る 9/22
- 星になった者達を集めている 9/20
- 名医もヤブとなる恋の空 9/19
- 野糞の話脳裏をよぎっている 9/19
- 芋を剥く兎の草食 9/16

兎汁に溶けいる手前味噌 9/13

木の又から兎 9/12

目を閉じたマリアが輝く 9/12

30秒でできる「」との「」 「」 9/11

悪徳もバージョンアップ 9/9

人相の悪い虚無僧に百円 9/9

観音様のお姿が見おろしてくださる 9/8

ウサギの御守も江戸前 9/7

月ぼんやりと急いだ人が渡ってゆく 9/6

一緒に泣いて見送った一日 9/4

月のしずくが瞳からポタリ 9/3

月見草が月に照らされている 9/3

あれもこれも食べたい季節 9/2

婆様にことずてる 8/31

今頃うろこ雲を散歩しているよ 8/30

ラッキーもアンラッキーも隣り合わせ 8/30

つるべを見たことが無い子のケータイ 8/25

また一つ取り壊されて富士山のタイル張り 8/21

小さな本が繰り返して教えてくれる 8/19

蝉をしみじみと浴びている 8/17

生姜スライスをそつと乗せている 8/15

新しいマークになって同じ品を売る 8/14

白髪も伸びてきて秋風 8/14

アポロマークが懐かしい原油高騰 8/14

表彰された兎の蝶ネクタイ 8/12

兎の道が細々つながっている 8/11

アートに占領される兎小屋 8/11

覗き込んでしきりに空を見ている 8/10

花少し冷たい風と 8/10

いつしか積み重なり花 8/8

不安定なパワー走法に女神 8/8

ちっちゃくなつてゆくおじいちゃんのブカブカ 8/7

追われる兎ばかりが浮かんでくる 8/7

巨乳流行盛夏万歳 8/3

孫のいない母の思い 8/2

俳句の深みに引き込まれてゆく 7/30

コピペでドン、のパソコンの辞書 7/28

雑踏唇をかみしめている 7/26

スクランブルに押し寄せてくる人波 7/25

指パッチンの空振り 7/24

京橋から日本橋、銀座新橋へと 7/22

とぼとぼと見える背中ばかり 7/22

ジェリーが脱いでもイイわよと笑う 7/21

結局立ち寄らず去っていった 7/20

学校に行けぬ子の朝顔が青い 7/19

ツルのぐんぐんと蕾の無い路地裏 7/19

毎日をひとつずつ詠むあさがお 7/19

昼下がりの講習が口を開けて寝ている 7/18

コンテンポラリー俳句のはしり 7/17

つんでいる勝負、気づかずに 7/16

子が二親を殺して温泉につかる酷暑 7/15

ジョンと笑顔の散歩の朝 7/15

皿の前でペタリと寝てしまったよ7/15

黒い塊が迫ってくる熱帯夜 7/14

兎増殖する御殿の台所 7/14

はぐれの旦那に軟派される朝帰り7/14

昼下がりの過ちの臭い 7/14

ゴマをする朝 7/12

エロエロを集めるお友達も増えてきた7/9

S字にくねったポーズの一枚 7/8

さくらんぼを握ったちっちゃな手 7/6

網目チョッキの九の一に見張られている 7/6

何千枚描いても下手絵 7/5

エロエロ版画が並んでいる常設コーナー 7/3

テロの記憶蘇ってくる 7/3

オリーブの身から出たサビ 7/2

色目を使われた気になって日参 7/1

ガラスの目玉に吸い込まれてゆく 7/1

大根のエロス売れ残っている 6/25

解ったつもりの人ばかりである 6/25



ポツケに滑り込ませてそつと出してみる 6/22

ガブリエル、クモの巣に巻かれている 6/17

香取広がってガブリ 6/17

悔やまぬ人生など無い煩惱 6/17

出番を待ちくたびれてまた一枚 6/15

因果また回ってきた 6/15

女だらけの句会の怪 6/14

一ドルを両替してあげるガソリンスタンド 6/14

ツキに追いかけられる白兔（バクト） 6/13

居酒屋のいざみや 6/12

夏の主役と一杯 6/11

ローレライ流れてきて今日のオススメ6/11

X線体を突き抜けてゆく 6/10

当て逃げのガードレール 6/9

ガードレール金属片の当て逃げ 6/8

ビールジョッキを10個持つ女がこっちへ来る 6/8

雪隠の板の顔に聞いてもらう 6/6

波間の鷗が教えてくれる 6/5

声援の無いスタジアムの2-0 6/3

毒づく男に酒を注いでやる 6/1

- 皿を舐めたように食べる飼い主 6/1
- 竹のさじで白いかたまりをすくう 6/1
- 物知り顔の兎が欠伸 5/31
- 綿棒の点描が笑う 5/29
- バツイチのリベンジ 5/28
- 日に四度の祈りがさまよい続ける 5/26
- 心中を決めて大川まで 5/24
- ツীবaiutoーばかり新しい家 5/21
- 握り飯を持って展覧会ツアー 5/19
- バラの花の中から尺取虫 5/18

- ギヤラの振込み待ちのキリンです 5/17
- ゆが流れ込んできてザブン 5/16
- 魚も卵も食べない菜食者の日本旅行 5/13
- 年金加盟のサボテン画家 5/12
- もらえるか解らない年金と金杯 5/12
- 川面鳥影と流れてゆく 5/11
- 蝶が卵を産みに来てくれたバラの葉の上 5/10
- 赤い花がギョロリと路地裏 5/10
- せっかち同士の会話がぶつかり合う 5/9
- 血よりも濃い俳な関係 5/9

- 催促された俳句のたまり場 5/8
- 催促された俳句一番多い場所 5/7
- あとずさりの肉球が耳を立てる 5/6
- 心を癒す催促軒をツルリ 5/4
- ひじ枕のつかの間 5/3
- 収入の全てをその日に浪費 5/1
- ヤブ蕎麦のヤボ 4/29
- 確実軒の亀蕎麦で長生き 4/28
- 催促軒の暖簾は白抜きの兎 4/27
- 黒い人が点となって連なる一日 4/26

お高いおにぎりの10%引きを 4/25

回転寿司の行列もぐるり 4/24

小船ゆらりとカモメの空 4/23

豆絞りのヒョットコ面が小窓を覗き込む 4/21

ワルぶる笑顔の寂しさに弱いのはよ 4/21

子供のウソの無い線が伸びてゆく 4/19

居酒屋の別れが最後 4/18

暖簾チラリと揺れて心残り 4/18

虎句という虎吉の独自の世界 4/16

鰻谷の兎の大阪 4/15

浮橋パクリと顔を出した 4/15

コウモリのつぶらな瞳がぶら下がっている 4/14

ガラスにぶつかって帰っていったコウモリ 4/13

チキンラーメンに卵をポンと落として蓋 4/13

粘着テープの女にカッターナイフ 4/12

南国暮らしも生協頼み 4/12

お気に入りのステッカーを貼ってチリリリン 4/11

兎の釣竿にアタリの手ごたえ 4/10

窓際も少なくなつた 4/8

赤札ついた催促軒の決算 4/8

印税ガツポリの皮算用 4/7

はずれワインと赤字決算 4/7

茶せんの絵を描いてコーヒー 4/6

愛妻家と恐妻家の二重人格 4/6

「愛妻家の女房」の新しい響き 4/5

反省しきりの尻尾は気にしない顔 4/4

シナチク茹であげてちよんと乗せた湯気 4/3

また人が変わったらしいお隣さんの透明人間 4/3

人情かすかに残る下町 4/2

ちどり足のステップがスッテン 4/2



- 良い茶のプンと広がった畳敷き 4/1
- 聞き出したネタが災い 3/30
- 書きたくない話ほど知りたくなる凡 3/29
- 経歴書は手書きとマニュアル 3/28
- 誇り高き負け犬 3/28
- 薄墨ほどよく広がって羽衣 3/28
- 羽衣の女が笛を吹く 3/27
- 最近は何しか来ないあとさえ 3/27
- うしみつに挨拶した美女の足元 3/26
- 梅安の縞の裾がヒタヒタと迫る 3/26

驚くべき投げ銭募集 3/25

花開く祭りのお囃子 3/23

もくれんワツと咲いている 3/23

春風が天女と吹き抜けてゆく 3/22

古墳の鬼も少なくなった 3/21

目に見える人もいるらしい美人の幽霊 3/21

だんまりを決めて3日 3/19

黙っていれば解りはしないぢやないか 3/19

猥褻俳句と間違えられることもある苦悩 3/18

リニアも昼飯も一時間待ち 3/18

- 白いうなじがポッと誘っている 3/17
- ときには親方も土方の夕暮れ 3/16
- 花粉眼鏡とすれ違う立体マスク 3/13
- 杯に映るかぐや姫を飲み込む 3/12
- ひと舐めで赤い顔と肴 3/10
- 鰻パイが配られて夜のお菓子 3/9
- 鰻の品薄感がスーパーに並ぶ 3/9
- 松江辺りを抜き足差し足 3/8
- 口を折り曲げた猫が手招き 3/7
- 缶詰を開ける、猫が起きる 3/6

イナバの缶詰に白兔 3/6

杯がおよぎ始めた 3/5

名人が掘りあげた筈を囲む 3/4

たけのこホツクリと囲む空 3/4

一足はやい食卓の桜餅 3/3

桜の下に広がった笑顔 3/3

手もみのお茶の茶壺娘 2/28

とけゆく雪を電柱が集めている 2/28

波止場のカモメに伝言を頼む 2/26

応援で盛り上がる一点リード 2/26

きっと見つかる 2/24

旅先の石を拾う 2/24

十八で旅に出た白兔の青春 2/24

現ナマ配るケンタリの鼻の穴 2/23

虚構に住まうお宅世代 2/22

似てないオットの物真似、猫とあくび 2/21

だんまり女にや弱い男衆 2/21

居眠りの耳からそつとささやいてみる 2/21

あの人もこの人も夜の町 2/20

狸寝入りのシツポがピクリ 2/20

ふるさとの水でコーヒーを沸かす 2/19

見通し悪くなる道はゆつくりと 2/16

マイクを離さないと評判の白い兎 2/16

かぐや姫のため息月へ 2/14

地球の鼓動を聞く青テントの中 2/13

返還できぬ事情闇の中 2/11

早く帰ってきてきて最北の祖国 2/10

穴からピョコリと飛び出してきた 2/9

まだ生きていた、電話の向こう 2/9

忍の気配か気のせいかな？ 2/9

無職時は思わざる明日 2/7

サツチモのラツパ眉間の皺 2/5

吹雪の足が深い 2/4

春そこいらから沸いてくる 2/2

こぼれては消える白兔の博識 1/31

知らざる幸せの春 1/30

アタマの悪さ笑って誤魔化している 1/30

千人針がこちらを見つめる昭和館 1/30

鍛冶打ちの音も小さくなった 1/28

波打った刃先に寄り目 1/27

- とりびで懐かしい顔と 1/26
- 文長くなり送らずに 1/25
- ポストが面倒なメール世代 1/24
- 菖蒲連なりてゆれて 1/22
- 梅の香に迷いいる尼寺 1/21
- 酒代節約の健康法 1/20
- 若さのためガイコツまで染め上げる 1/18
- 白髪染め少しだけ 1/18
- 白髪の増えた洗面台 1/17
- 喜怒哀楽の一日 1/17



確率の女神が微笑んでくれた 1/15

ロンと勢いの指先 1/15

三連単で405万円 1/15

しつとりと肌ピカ 1/14

張りのあるお肌は日々精進から 1/14

水探す猫の冬 1/13

コンビニの湯気に誘われる 1/11

河童橋で蒸籠を買う中国人の日本語 1/10

清酒『白兔』のラベルはおじやら絵で 1/9

津軽のリンゴのほっぺが並ぶ 1/8

額縁から飛び出してきたイヌに噛まれる 1/7

コツコツとまた一枚 1/7

歩道を折れて傘つぼめる路地裏 1/6

新しいエアコンの優しさ 1/6

千住の旧日光街道をオジヤラ絵で埋め尽くす野望 1/6

一本道細長く 1/5

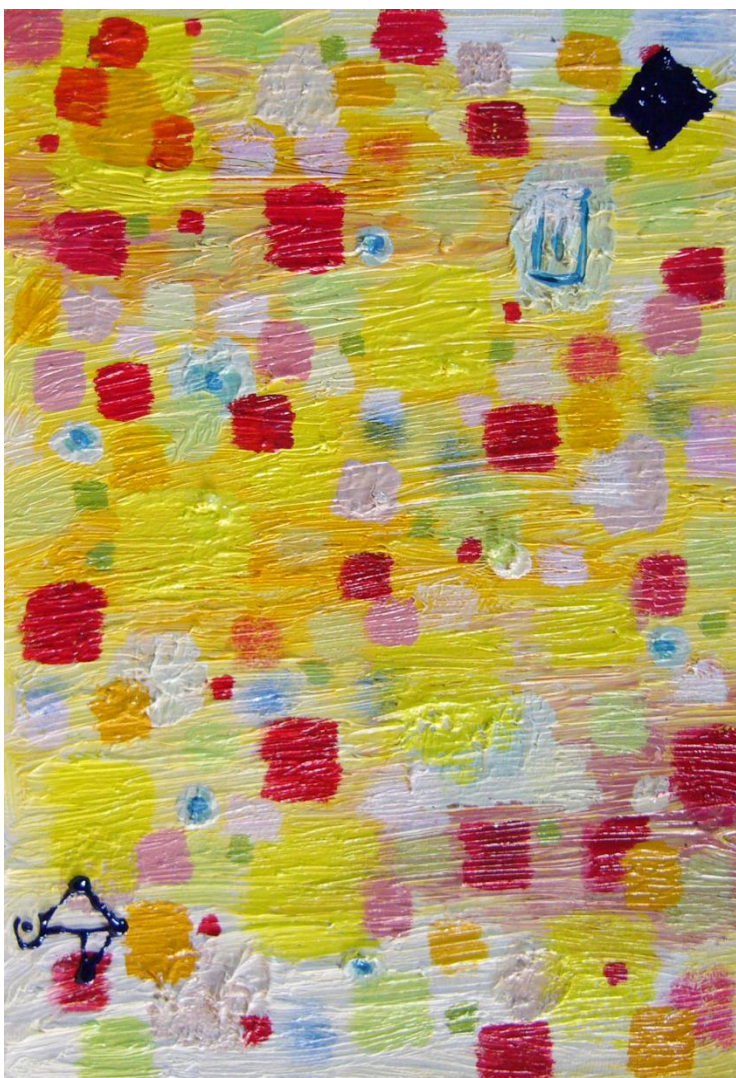
ハンと出て身ぐるみ剥がされて 1/4

駄洒落だーっ、が流行語大賞に 1/4

着物姿も見かけぬ成人の日の騒ぎ 1/3

ポケットに手を突っ込んで風に卷かれる 1/2

その他の掲示板なんかで詠んだ俳句



むふふランジエリーショップ開店す

イケメン歯科医のメガネ真新らし

肝臓の断層写真キヤビア乗せ

おわりに

お読みになったんっすか？アタナも暇な方ですねえ。こんな駄句なんて読んでないで、自分の俳句でも作ったらどうっすかね？たは。読んで頂いて、ありがとうございました。

というコメントは、去年のと全く同じです。俳句ノートですので、まあ、深く考えずにさっぱりとで。中には俳句じゃないものもありますけどね。笑。

あんまり成長がないというのを除けば、毎日俳句を作ったり、それを記録しておくというのは、大切な作業だと思います。

いつも、連れ句をしてくださっている皆様、ありがとうございます。感謝します。

日課のように、俳句を作るようになり、こんなに沢山の句が残ってゆくというのがオドロキです。では、また来年。

## おまけ

タイトルの俳句候補

笑えるのでどのようにタイトルを決めたのか  
という話を載せようと思います。

まず、句集の全体から、どの俳句をタイトル  
にしようかの候補を選びました。

思い出絵の中に閉じ込めている 12/31

つれない雲がプカプカ♪ 12/5

探し物は見つからない 10/28

笑い袋と一人 8/23

パソコンが壊れて未読 7/3

はるはあけぼの、式部とは不仲 5/5

楽しみの連れ句、たまには 2/21

オツシヤルトオリと口では 1/21

みかんの点描が対比する空 12/31

オレンヂ色を翻して一歩 12/30

ナイスミドルの皆様に投げキッス 12/3

うっすら笑う埴輪につられている 10/25

駄句のような一日の一枚が並ぶ 9/26

柿くへばという句のよさ 8/8

まだ見ぬ地の果てを探している 7/23

空色どこまでも 5/19

猫と大の字の春風 4/15

うなじづく連れ句 3/25

探しては日暮れている 1/16

丸まってあくび一つ 1/8

ちくわの穴を覗いてごらん、ほら、空が 11/23

ツギが追いかけてくる 11/10

婆様にことずてる 8/31

指パツチンの空振り 7/24

解ったつもりの人ばかりである 6/25

ギヤラの振込み待ちの麒麟です 5/17

あとずさりの肉球が耳を立てる 5/6

聞き出したネタが災い 3/30

俳句集のタイトルですので、ここは、笑いを  
とりに行こうと思い、ありきたりな句や、笑  
えない句を除きます。

つれない雲がプカプカ♪ 12/5

笑い袋と一人 8/23

はるはあけぼの、式部とは不仲 5/5

柿くへばという句のよみ 8/8

うなじづく連れ句 3/25

丸まってあくびーっ 1/8

ちくわの穴をのぞいてごらん、ほら、空が 11/23

婆様にことずてる 8/31

指パッチンの空振り 7/24

聞き出したネタが災い 3/30

どーっすかね、十句を選びましたけどね、  
一応本なんでね、読んでみようという気にな  
るタイトルにしたいっすよね。

はるはあけぼの、式部とは不仲 5/5

ちくわの穴をのぞいてごらん、ほら、空が 11/23

婆様にことずてる 8/31

指パッチンの空振り 7/24

四つに絞られました。  
うーん。

俳句集なんでね、まあ、インテリ俳句愛好家、句会好きという方をターゲットにするとすれば、「はるは」なんだけどね。品がない句だからなあ。

ちくわは、明らかにオノヨーコのパクリだし。まあ、アーティストとか、お笑いを理解する方にはオツケーかなあ。

婆は、俳句だとわからない人もいるよねえ。個人的には、指パッチンなんだよね。瞬間表現極まりすぎですって。

やっぱ、ちくわにするかなあ。

こんなところに時間かけても仕方ないし。笑。ということ、

この本のタイトルは、

「ちくわの穴をのぞいてごらん、ほら、空が」に決定。

おじやらよ、コレは、俳句なのかよ？

うーむ。。。。。「連れ句」です。キツパリ。

よい子の皆さんは、決して真似しないでください。



おじや  
りか

# あとりえおじやらの本



\*\*\*\*\*

電子俳句ノート二〇〇五

『ちくわの穴をのぞいてごらん、ほら、空が』

ネット配信版（電子本） フリー

CD-ROM版 ￥700

発行 二〇〇六年四月

俳句と文 おじやら りか

発行者 小山田 理花

発行所 あとりえ おじやら

〒110-0003 四

東京都足立区千住 5-26-10

E-Mail: [rica@ojara.net](mailto:rica@ojara.net)

<http://www.ojara.net>

-2007 ISBN4-901941-21-6

2007- ISBN978-4-901941-21-1

© おじやら りか

お気づきの個所がありましたら、ご面倒様でも、E-mailにてお知らせください。よろしくお願い致します。

# おどいおじやらの本



<http://www.ojara.net>

-2007 ISBN4-901941-21-6 C0892 ¥0700E  
2007- ISBN978-4-901941-21-1 C0892 ¥0700E